

八代傳火のほし

外題國書

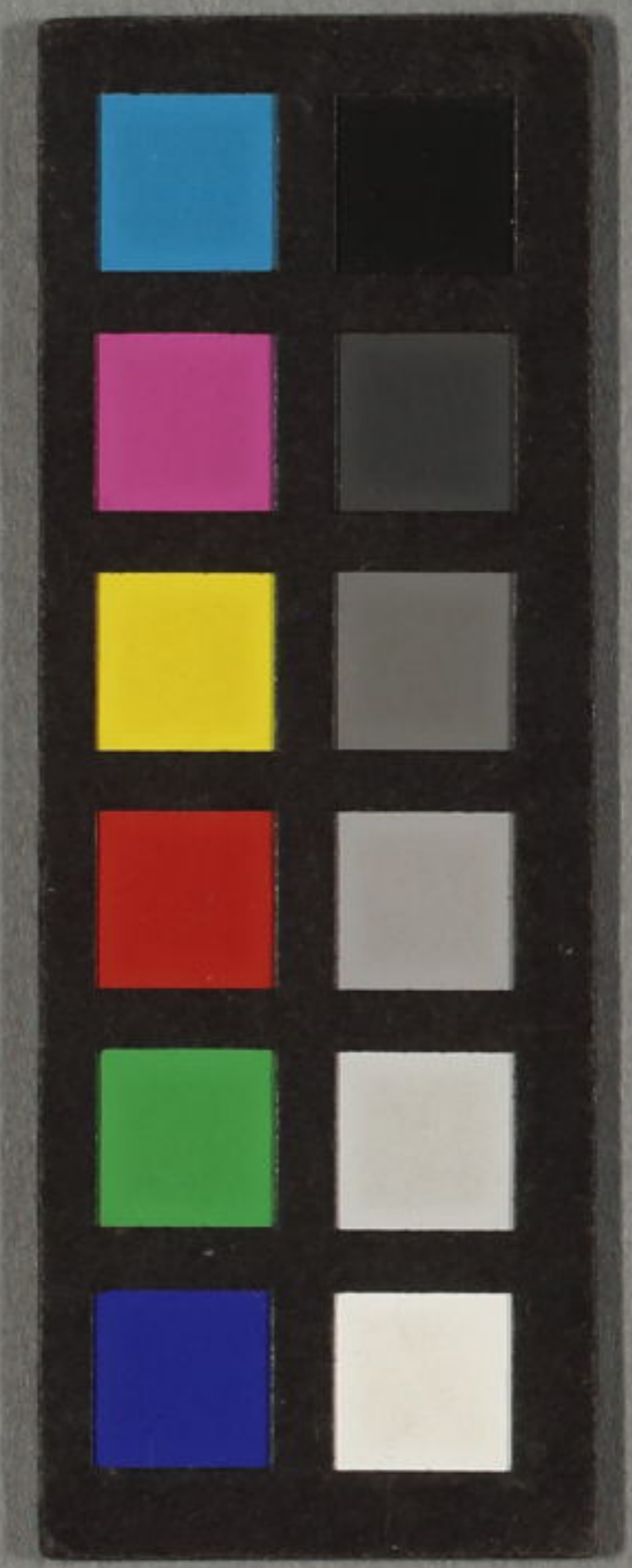
四十五編下

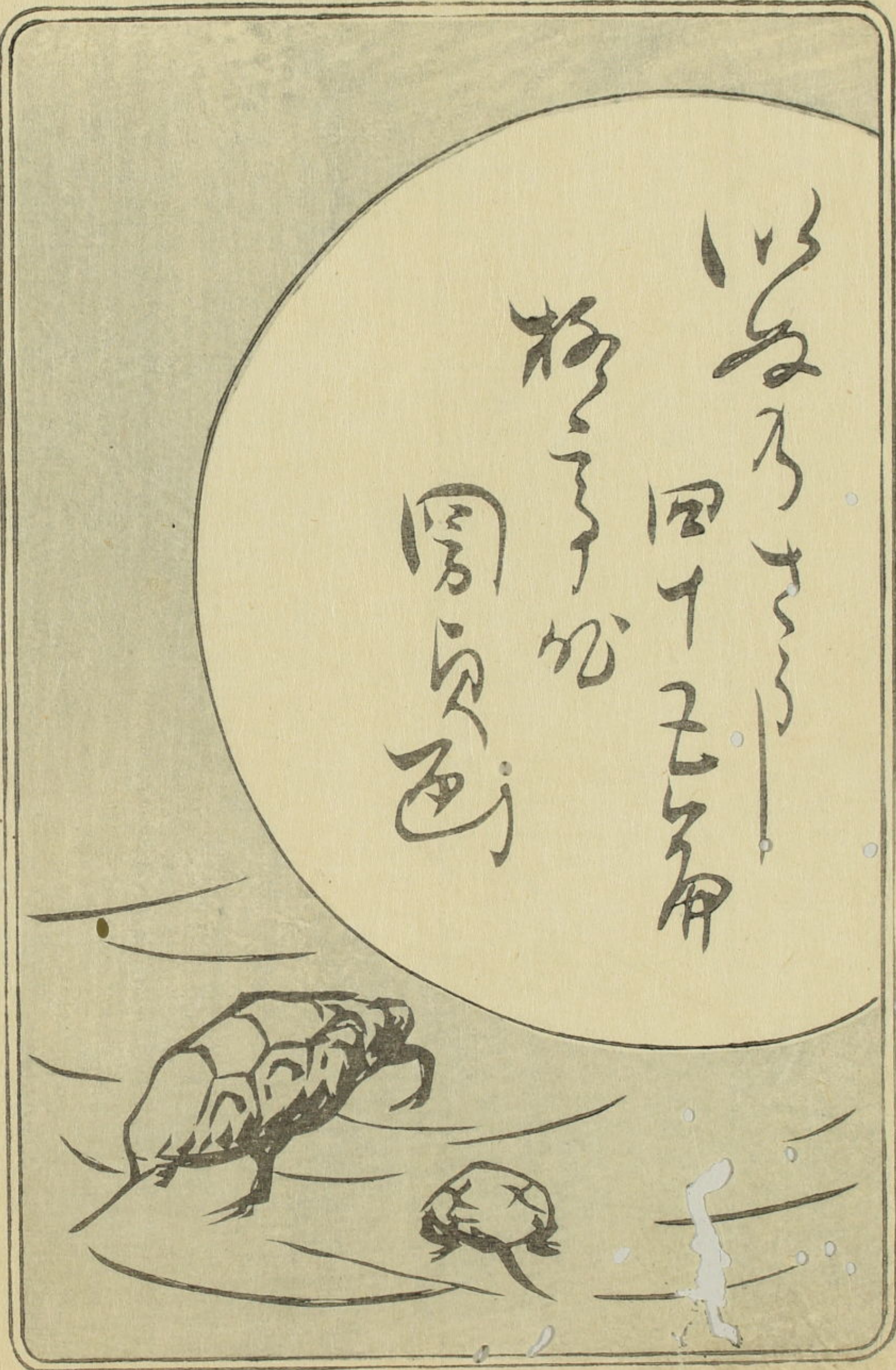
一蘭齋國綱画

柳亭種彦録

四十五編上







以爲るるさるる

四十乙乙

柳亭主人



本傳第百二十回標頭隻句小機變を旋去々素藤牛狼の囚を易也と有ハ
 藁偶の牛助もて狼之助と交易の一段を標せるは是も此の隱微あり此を
 義成乃語も托して百十三回之首に記せり曰机上の理論ハ儒の虚文多辯ハ要るに
 あり名詮自性ありあり那素藤が狡猾ある牛助もて狼之助も易登相を
 ルて礪時易んとしひ映えたる即と之汝們ハ心もつのもや夫牛ハ仁獸之狼
 惡獸之又桐ハ直木之礪ハ磨石ゆて疎砥之仁獸の牛惡獸の狼小獸去々直木
 の相疎砥の取き及ざるハ猶孔子の次孟軻は臧倉より讒誹
 らまてくるが如し盜跖孔子を罵るとも孔子の聖人言ハ害ハ臧倉孟軻を
 誹と孟子孟軻の大賢言ハ害ハ上如口此説どもハ幼童達の悦びありハ
 少省つぬ故叟曲筆の到底るを黙止も本意あり卷端小載せり

文久三年庚春



柳亭主人



上野原の
賣茶店
正木女



大正四年四月十五
犬江親兵衛仁
河鯉孝嗣
寛罪の刑
消息を聞
向岡へ往
とせり
変ハ早
七編子
詳あり

六草氏四十五



△
 此の巻は、
 昔の物語を
 今に傳へて
 人の心を
 動かすもの
 なり。其の
 中に、
 名士の
 事蹟が
 多く載
 りて、
 人の
 心を
 動か
 す。其
 の中
 に、
 名士
 の事
 蹟が
 多く
 載り
 て、
 人の
 心を
 動か
 す。

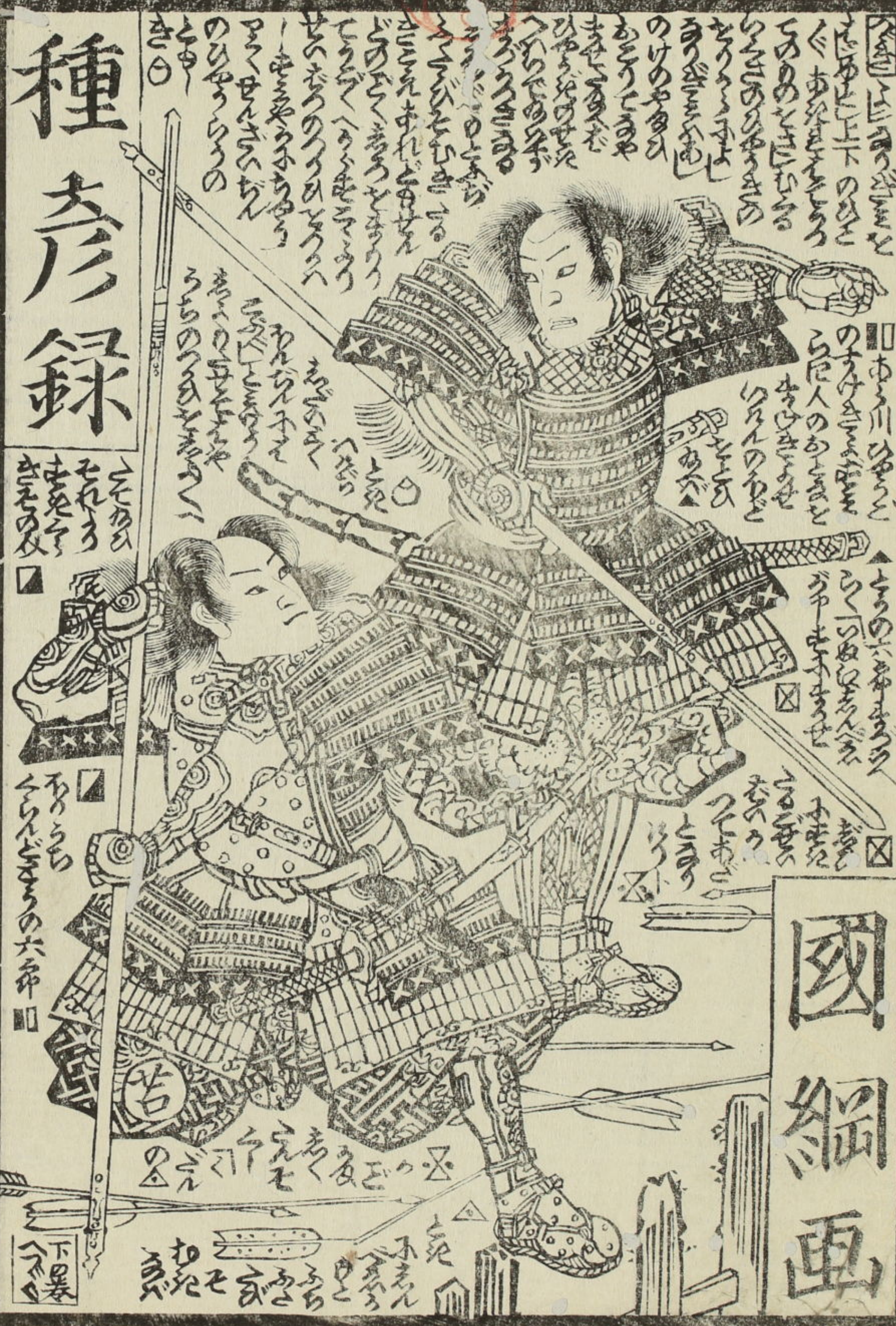


△
 此の巻は、
 昔の物語を
 今に傳へて
 人の心を
 動かすもの
 なり。其の
 中に、
 名士の
 事蹟が
 多く載
 りて、
 人の
 心を
 動か
 す。其
 の中
 に、
 名士
 の事
 蹟が
 多く
 載り
 て、
 人の
 心を
 動か
 す。

六草氏四十五

五

國綱画



種彦録

これより
それより
それより
それより

あつらひ
あらたきもの六本

下巻

御免 疝積湯 せんきのゆき系
信州上田 東山堂製

一包 四十八銅
一包 廿四銅

實母散

本家
私方実母さんの...
中橋南傳馬町一丁目東
千葉堂孝輔製

濡衣 霧粉 雨雙紙

柳亭 梅彦作
梅蝶樓 國貞画

伊達關 戲場取組

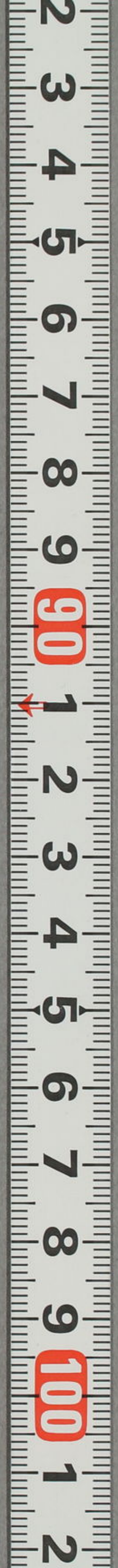
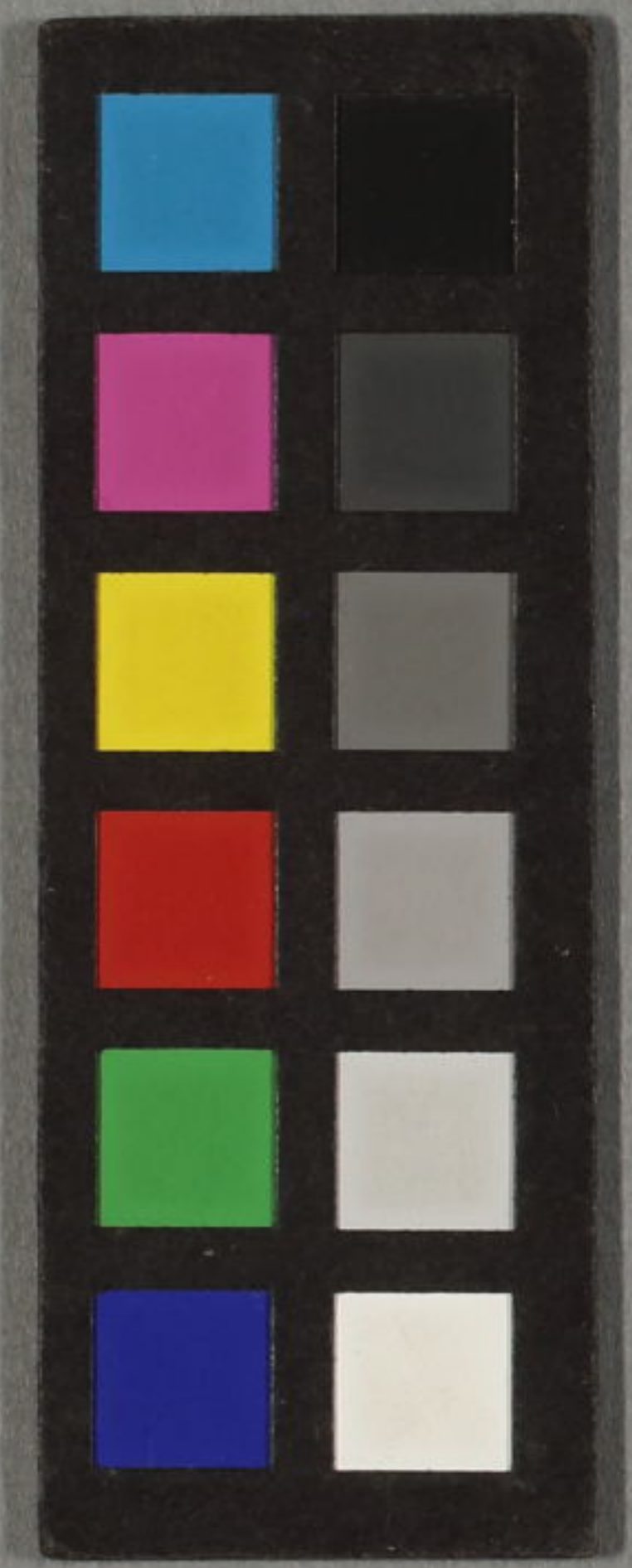
河原崎 権十郎作
梅蝶樓 國貞画

胡蝶 卷

柳亭 種彦作
梅蝶樓 國貞画

初篇 追々出板







八景氏田一五



いんげいぬ
乃子さき
羅一乃多
物さし
秀流
丹一
美中
持





